

質の高い保健医療福祉サービスを、必要とするすべての人に届ける

ユニット名

ヘルスサービスリサーチ

ユニット代表者

医学医療系 教授 田宮 菜奈子

◆ユニット構成員 総数 25名 (教員 18名/ポストドク 0名/他機関 7名)



キーワード 介護、医療、福祉、保険制度、質評価

<http://tsukuba-hsr.org/index.php>

急速な高齢化が進む日本。この高齢化社会に、どのような質の保健医療福祉サービスを提供していくかについて、世界中の関心が集まっています。いま、これらのサービスは、必要とする人たちに質を保ったまま行き渡っているのでしょうか。本リサーチユニットでは、様々な視点からサービスの質を科学的に評価・分析することで、保健医療福祉サービスの質の向上を目指しています。

国内初のヘルスサービスリサーチ専門研究拠点

ヘルスサービスリサーチとは、ストラクチャー（構造）、プロセス（過程）、アウトカム（成果）の3概念を基本に、現場のデータ・国や地方自治体などの調査データの活用などを通して、保健医療福祉に関するサービスの質を科学的に評価・分析し、また、医学・経済学・社会学などの学際的な視点からも考察する研究です（図1）。研究成果は現場や国に提言し、サービスの質の向上につなげます。ヘルスサービスリサーチは、欧米では、専門の学術雑誌も複数あり、公衆衛生学の一部として位置づけられていますが、日本では、まだ十分に根付いていません。そこで、私たちは、国内初のヘルスサービスリサーチ専門研究拠点を設置し、高齢化など日本が抱える保健医療福祉サービスの課題の解決に取り組んでいます。

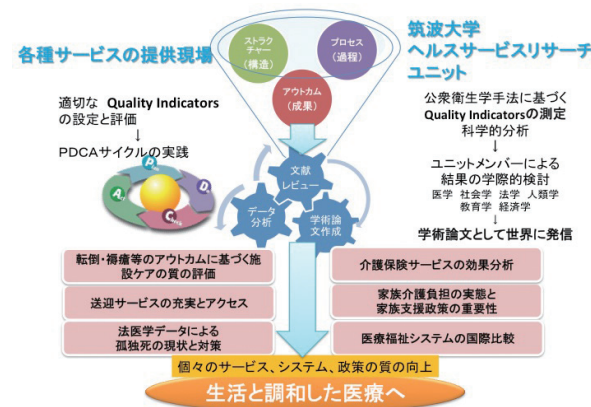


図1：ヘルスサービスリサーチ分野の研究枠組み

「生活と調和した医療」のための実証研究

現在私たちは、主に高齢者の介護制度に関する研究を進めており、これまでの分析結果から、医療との連携、各種サービスの質の評価・向上、そして、介護者支援制度の充実化が重要であると考えています。今後は、国の介護保険利用データを用いた大規模な分析により、科学的根

拠をさらに積み重ね、政策提言にもつなげていきたいと思っています。また、ケアを必要とするすべての人という意味で小児、とくに障がい児にも研究を展開し、ケアする人も対象に研究を進めています。

私たちは、質の高い保健医療福祉サービスを、生活と寄り添ったかたちで必要な人たちに切れ目なく届けることが重要と考えています。しかし、現在、社会格差や縦割り行政などにより、制度やサービスの隙間で、医療の提供がQOLの高い生活と乖離している現状があります。こうした実態をデータにして実証研究し、提言することでその隙間を埋めて、「生活と調和した医療」を実現していきたいと思っています（図2）。

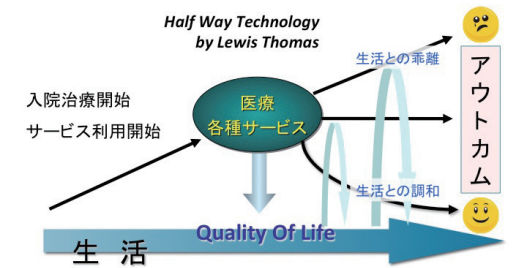


図2：生活と調和した医療のために

社会への貢献・実績

- つくば市高齢者福祉推進会議委員長を3期務め、市と大学と協力して市民ニーズ調査の実施および分析を行い、根拠に基づく政策提言に貢献
- 日本の皆保険50周年を記念し、世界に日本の制度を発信したランセット日本特集において高齢者介護部分を担当
- 「ヘルスサービスリサーチ入門——医療をサービスとして科学する(仮)」を、2014年2月発行予定（下記講義のテキスト）
- 「臨床家のためのヘルスサービスリサーチ入門」を、一般公開土曜集中講義として東京キャンパスで開講予定（2014年2月）
- チリ政府研究所からの博士課程留学生とともに、日本の介護保険について分析した博士論文を出版することが決定（Springer社）Trends and Factors in Japan's Long-term Care Insurance System: Japan's 10-year Experience. Pedro Olivares-Tirado, Nanako Tamiya Springer Briefs, 2014
- 人文社会系学際ユニット「家族のための総合政策」との共同で、グローバルエイジングセンター設立準備中（本学プレ戦略経費による）